[環境化学 (Journal of Environmental Chemistry) Vol.20, No.2, pp.173-181, 2010]

GC-MS を用いた大気中多環芳香族炭化水素酸化物の 分析法開発に関する基礎検討

岸田 真男1*), 今村 清1), 亀田 貴之2), 早川 和一2), 坂東 博3)

¹⁾大阪府環境農林水産総合研究所(〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道1-3-62)
 ²⁾金沢大学大学院医薬保健研究域薬学系(〒920-1164 石川県金沢市角間町)
 ³⁾大阪府立大学大学院工学研究科(〒599-8231 大阪府堺市中区学園町1-1)

[平成22年1月4日受付,平成22年4月19日受理]

Determination of Oxygenated Polycyclic Aromatic Hydrocarbons in the Atmosphere using Gas Chromatograph-Mass Spectrometer

Masao KISHIDA¹⁾, Kiyoshi IMAMURA¹⁾, Takayuki KAMEDA²⁾, Kazuichi HAYAKAWA²⁾ and Hiroshi BANDOW³⁾

¹⁾Research Institute for Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefectural Government (1-3-62 Nakamichi, Higashinari, Osaka, Osaka 537-0025) ²⁾Kanazawa University (Kakuma, Kanazawa, Ishikawa 920-1192) ³⁾Osaka Prefecture University (1-1 Gakuen, Naka, Sakai, Osaka 599-8531)

[Received January 4, 2010; Accepted April 19, 2010]

Summary

A determination method of atmospheric oxygenated polycyclic aromatic hydrocarbons (Oxy-PAHs) in particulate matter and the gaseous phase using gas chromatograph (GC)-mass spectrometer (MS) was studied in the present study. First, we obtained fundamental data of GC–MS analyses (mass spectra and calibration curves) of twelve Oxy-PAHs as follows: acenaphthenequinone (AceQ), 1,4-naphtoquinone (1,4–NQ), 9-fluorenone (9-F-one), 1,4-phenanthrenequinone (1,4–PQ), 1,4-, 9,10-anthaquinone (1,4–, 9,10–AQ), 1-hydroxyanthrquinone (1–OHAQ), 1,2-benzanthraquinone (1,2–BAQ), benz[*c*]phenanthrene[1,4]quinine (BcP–1,4Q), 3,4-dihydrobenzo[*a*]anthracene-1(2*H*)-one (BaA-one), 1,4-chrysenequinone (1,4–CQ) and 9,10-dihydrobenzo[*a*]pyrene-7(8*H*)-one (BaP-one). Subsequently, to evaluate collection efficiency of Oxy-PAHs, air was passed through a quartz-fiber filter (QFF) spiked with authentic Oxy-PAHs and then through cleaned polyurethane form (PUF) plugs using a mini-pump or a low-volume air sampler for 24 h in the dark at a constant room temperature (20 or 35 °C). Oxy-PAHs retained on the QFF and those trapped within PUF plugs were simultaneously Soxhlet extracted, purified with silica by gel column chromatography and determined using GC–MS.

The calibration curves for the determination of the twelve Oxy-PAHs were proportional in the concentration range between 0. 02 and 1. 0 µg/mL with r^2 values of 0. 960–0. 999. Among the twelve Oxy-PAH compounds examined, recoveries of six compounds (1,4–NQ, 9–F–one, 9,10–AQ, 1,2–BAQ, BaA-one and BaP-one) during sampling, Soxhlet-extraction and clean-up procedures sufficiently yielded 79–127% at a room temperature of 20 °C and 57–127% at 35 °C. The method detection limits (MDLs) of the six compounds ranged between 0. 61–1. 07 ng/m³.

The proposed method was applied to the determination of the six Oxy-PAH compounds in the atmosphere. Air sample was collected at an urban location of Osaka, Japan for 12–13 February 2007. 1,4–NQ, 9–F–one and 9–F–one were detected in the sample at concentration level of approximately 0. 7–3 ng/m³.

Key words: GC-MS, Oxygenated polycyclic aromatic hydrocarbons, Particulate matter, Gaseous phase, Osaka

*現所属:大阪府商工労働部商工振興室(大阪府大阪市中央区谷町2丁目)

Commerce and Industry Promotion Office, Department of Commerce, Industry and Labor, Osaka Prefectural Government (2 Tanimachi, Chuo, Osaka, Osaka 540–8570)

1. はじめに

トラックなどの大型車に搭載されているディーゼルエンジンは、 ガソリンエンジンと比較して、窒素酸化物や粒子状物質(Particulate matter [PM])を多量に排出する¹⁾。PM については、がん、呼吸 器あるいは心臓血管系疾患への寄与が指摘されている¹⁾が、中でも 粒径2.5 µm 以下の微小粒子(PM2.5)は、その粒径の小ささから 肺の深部に進入しやすく、人体への影響が危惧されている。日本に おいては、2009年9月、環境省がPM2.5の環境基準について告示 を行う²⁾など、国および地方自治体は、現在、その規制と対策に取 り組んでいるところである。しかしながら、PM の表面上あるいは その内部に存在する化学物質の生体への影響についての情報は比較 的少ないと思われる。

粒子状化学物質の代表的なものとして、多環芳香族炭化水素類 (Polycyclic Aromatic Hydrocarbons [PAHs]) が挙げられる。こ れらは、発がん性あるいは変異原性など人体に悪影響を及ぼす³³ こ とが知られており、世界中で調査研究が実施されている⁴⁻¹⁸⁾。こ の他、ニトロ化 PAHs¹⁹⁻²²⁾ や PAH 酸 化 物(Oxygenated PAHs [Oxy-PAHs])²³⁻²⁹⁾ についても、PAHs と同様、人体への健康影響 などが報告されている。中でも、Oxy-PAHs は、生体内において レドックスサイクリングを介して活性酸素種を生成し、DNA 損 傷などの酸化的ダメージを与えたりすることが明らかになってい る^{1,25)}。このことから、大気中 Oxy-PAHs の濃度レベルやその動態 を把握することは非常に重要である。

粒子状 Oxy-PAHs の分析には、一般的に高速液体クロマトグラフ (High-performance liquid chromatograph [HPLC])が使用されて おり、検出器として蛍光検出器²³⁻²⁵⁾、化学発光検出器²⁶⁾あるいは タンデム質量分析計(Mass spectrometer [MS])²⁷⁾などが用いら れている。一方、ガスクロマトグラフ(Gas chromatograph [GC]) -MSを用いた Oxy-PAHs の分析については、これらの化合物は蒸 気圧が比較的低く、極性が比較的強いため、感度が不十分である²³⁾ と考えられおり、使用頻度は HPLC と比較して非常に低い^{28,29)}。し かし、GC-MS は多成分一斉分析に適していることから、基礎的な 検討が必要であると思われる。

粒子状 Oxy-PAHs のサンプリングについては、ハイボリューム (High volume [HV]) エアーサンプラーを用いて石英繊維ろ 紙 (Quartz-fiber filter [QFF]) 又はガラス繊維ろ紙上に捕集する のが一般的である。しかし、Oxy-PAHs のうち比較的分子量の低い 9,10 -anthraquinone 等については、蒸気圧が比較的高い³⁰⁾ ため、粒子のみならず気相にも存在している可能性がある。しかし、Oxy-PAHs の PM-気相間分配に関する情報はほとんどない。また、HV エアーサンプラーを用いた試料採取時には、ろ紙を通過する多量の オキシダントによる Oxy-PAHs の分解や Blow-off 等のアーティファ クトが懸念される^{18,31)}。

本研究では、粒子状および気体状 Oxy-PAHs の GC-MS を用いた 分析手法の開発を目的として、12 化合物を対象に、QFF とポリウ レタンフォーム (Polyurethane form [PUF])を用いた捕集効率、 クリーンアップ及び GC-MS 測定について基礎的な検討を行った。 捕集効率の検討については、20 ℃あるいは 35 ℃に設定した恒温室 内にて遮光された状態で実施した。さらに、試料採取時におけるアー ティファクトを最小限に抑えるため、ミニポンプ又はローボリュー ム (Low volume [LV]) エアーサンプラーを用いて低流速(5 L/ min)で大気を吸引した。各実験手法については化学物質分析法開 発マニュアル³²⁾を参考とした。

2. 実験方法

2. 1 Oxy-PAHs 標準試薬

本研究で検討したOxy-PAHsは、acenaphthenequinone (AceQ), 1,4-naphtoquinone (1,4-NQ), 9-fluorenone (9-F-one), 9,10-phenanthrenequinone (9,10-PQ), 1,4-, 9,10-anthaquinone (1,4-, 9,10-AQ), 1-hydroxyanthrquinone (1-OHAQ), 1,2-benzanthraquinone (1,2-BAQ), benz[c]phenanthrene[1,4] quinine (BcP-1,4Q), 3,4-dihydrobenzo[a]anthracene-1 (2*H*)-one (BaA-one), 1,4-chrysenequinone (1,4-CQ), 9,10-dihydrobenzo[a] pyrene-7(8*H*)-one (BaP-one) の12化合物で,東京化成製, Aldrich 製, Avocado Research Chemicals 製, ICN Biomedicals 製およびFluka BioChemika 製を使用した。

2. 2 大気中 Oxy-PAH 化合物の捕集

2. 2. 1 捕集の概要

前段に QFF(直径 47 mm,東京ダイレック),後段に PUF(直径 50 mm,高さ 50 mm,GL サイエンス)2個を小型サンプラー(特注品,GL サイエンス)に直列に装着し、QFF で大気中 PM を,PUF で気体状物質を捕集した。本研究では、ミニポンプ(MP- Σ 500,柴田科学)又は LV エアーサンプラー(SP208 LV-30 L,GL サイエンス)を用いて流速 5.0 L/min で 24 時間,大気を通気した。QFF は 600 ℃で 4 時間加熱したものを,PUF はアセトンで 8 時間,続いてジクロロメタンで 16 時間 ソックスレー抽出にて洗浄し、真空デシケーターで 24 時間以上乾燥させたものを使用した。

2. 2. 2 測定方法の検出下限値(Method detection limit [MDL]) 算出用及び大気調査用試料の捕集

測定方法の検出下限値(Method detection limit [MDL])算出用 として,洗浄したQFFとPUFを装着したサンプラーを8組用意 し,2.2.1に従い,同時に大気を吸引した。大気試料は大阪市東成 区に位置する大阪府環境農林水産総合研究所(以下,研究所と記 す)で採取した。この地点は,近くに交通量の多い阪神高速道路や 主要幹線道路があり,種々の大気中化学物質の調査が実施されてい る^{89,33-35)}。捕集後,8組のうち7組のQFFに各Oxy-PAH 化合物を 30 ng 添加した。添加方法は,1 ng/µLのOxy-PAHs 混合標準溶液 (溶媒:ヘキサン)をマイクロシリンジで30 µL分取し,QFF上に 円を描くように滴下した。ヘキサンは室温にてすぐに蒸発した。添 加後,QFF は PUF と併せて前処理に供した(2.3参照)。無添加の 1組についてはブランク試験用とした。

大気調査用の試料は、2007年2月12-13日の24時間,研究所 にて2.2.1に従い採取した。採取後,QFFとPUFはそのまま前処 理に供した(2.3参照)

2. 2. 3 添加回収実験

洗浄した QFF に各 Oxy-PAH 化合物を 300 ng 添加した。添加方 法は, 10 ng/µL の Oxy-PAHs 標準ヘキサン溶液をマイクロシリン ジで 30 µL 分取し, QFF 上に滴下した。その QFF と洗浄済みの PUF をサンプラーに装着し,研究所内の恒温室にて,一定温度の下, 消灯した状態で, 2.2.1 に従い大気を吸引した。この試験について は, 20 ℃および 35 ℃で実施し,添加回収実験用として 4-5 組, ブ ランク試験用として 1 組を実験毎に用意した。その後, QFF およ び PUF は前処理に供した (2.3 参照)。

2.3 前処理及び GC/MS 測定

2.2の各実験において用意した QFF および PUF を併せてソッ クスレー抽出管に挿入し、ジクロロメタンを用いて 24 時間抽出を 行った。粗抽出液は、ヘキサンへ転溶後、5gの5%含水シリカゲ ルでクリーンアップを行い、内標準物質(fluoranthene- d_{12} および perylene- d_{12} ,和光純薬製)をそれぞれ25 ng ずつ添加後,窒素吹き 付けにより1 mL に濃縮した。本実験で使用した5%含水シリカゲ ルは、シリカゲル(C-200,和光純薬製)47.5 gと蒸留水2.5 mL を三角フラスコに入れ、約10分間激しく振とうして調製し、3時 間程度デシケーター内で放置したものを使用した。有機溶媒は和光 純薬製の農薬分析用を使用した。

調製した濃縮液 1 mL のうち 1 µL を GC-MS (HP6890 A; Agilent, 5973 N Mass Selective Detector; Agilent) に注入し, Oxy-PAH 化合物を定量した。測定条件は Table 1 に示す。

3. 結果と考察

3.1 Oxy-PAH 化合物のマススペクトル

Oxy-PAH 化合物および内標準物質のトータルイオンクロマトグ ラム (Total ion chromatogram [TIC]) を Fig. 1 に示す。検討した すべての化合物のピークが検出された。

各化合物のマススペクトルを Fig. 2 に示す。AceQ 以外の 11 化合物については、定量用イオンとして分子イオンを示した。Oxy-PAH 化合物の定量用および確認用イオン (定量用イオンは下線) は、1,4-NQ (m/z <u>158</u>, 102), 9-F-one (m/z <u>180</u>, 152), AceQ (m/z <u>126</u>, 182), 1,4-PQ (m/z <u>208</u>, 152), 9,10-AQ (m/z <u>208</u>, 180), 1,4-AQ (m/z <u>208</u>, 152), 1-OHAQ (m/z <u>224</u>, 139), 1,2-BAQ (m/z <u>258</u>, 202), BaA-one (m/z <u>270</u>, 212), 1,4-CQ (m/z <u>258</u>, 202) および BaP-one (m/z <u>270</u>, 214) となった。

3. 2 検量線及び装置の検出下限値 (Instrumental detection limit [IDL])

各 Oxy-PAHs の標準品 10 mg を 10 mL の ヘキサン に 溶解 し, 1.0 mg/mL としたものを標準原液とし, ヘキサンで適宜希釈して, 標準溶液が 0.02-1.0 µg/mL, 内標準物質が 0.5 µg/mL となるよう に標準溶液を調製した。この標準溶液から得られた各 Oxy-PAHs の

GC				
Column	SLB-5ms (Supelco, PA, USA)			
	$30 \text{ m} \times 0.25 \text{ mm}$ I.D., 0.25 µm f.t.			
Column temp.	70 °C (1 min. hold), 30 °C/min. to 130 °C, 5 °C/min. to 310 °C (6 min. hold).			
Carrier gas	He (constant flow: 1.2 mL/min)			
Injection temp.	300 °C			
Injection mode	splitless			
MS				
Ion source	El positive			
Ion source temp.	300 °C			
Interface temp.	200 °C			
Ionization voltage	70 eV			

Table 1 Analytical conditions of GC-MS for the determination of Oxy-PAHs



Fig. 1 Total ion chromatogram of authentic Oxy-PAH compounds and deuterated PAHs

Concentration of each Oxy-PAH and deuterated PAH were 1. 0 and 0. 5 ng/mL, respectively. 1: 1,4-NQ, 2: 9-F-one, 3: AceQ, 4: 1,4-PQ, 5: 9,10-AQ, 6: 1,4-AQ, 7: 1-OHAQ, 8: 9,10-PQ, 9: 2-OHAQ, 10: 1,2-BAQ, 11: BcP-1,4-one, 12: BaA-one, 13: 1,4-CQ, 14: BaP-one, A: fluoranthene- d_{12} , B: chrysene- d_{12} , C: perylenre- d_{12} . Peak nos. 8 and 9 were not examined, and C was not used in the current study



Fig. 2 Mass spectra of twelve authentic Oxy-PAH compounds

ピーク面積と内標準物質 (fluoranthene-d₁₀ 又は perylene-d₁₂) のピー ク面積比と濃度比から検量線を作成した (Fig. 3 および Table 2)。 検討したすべての Oxy-PAH 化合物について, 0.02-1.0 µg/mL の 間で直線関係が認められた (r²: 0.9604-0.9997)。

続いて、検量線の最低濃度である $0.02 \mu g/mL$ 標準溶液を 7 回 繰り返し測定することにより、装置の検出下限値(Instrumental detection limit [IDL])を求めた(Table 2)。算出方法は次式³²⁾に従っ た。

$$IDL = t (n-1, 0.01) \times Sc$$

$$(1)$$

ここで、Sc は n 回繰り返し分析での標準偏差,t (n-1,0.01) は 危険率1%,自由度 n-1のt値(片側)を指す。検討した Oxy-PAH 化合物の IDL値は2.5-8.9 pg/µL(相対標準偏差:3.4-1.4%)であっ た。これらの値は,LC-化学発光検出器による1,2-NQ,1,4-NQ, 9,10-AQ および9,10-PQ の検出下限値(4.1-9.5 pg/µL:S/N = 3 より算出)²⁶⁾ や LC-蛍光検出器による1,2-BAQ の検出下限値 (1.3 pg/µL:S/N = 3 より算出)²³⁾ と比較して同程度あるいは若干 上回っている程度であったが,LC-タンデム MS による benzo[*a*] pyrene-dione 等の定量下限値(0.03-1.7 pg/µL:S/N = 10 より算 出)²⁷⁾ を大きく上回っていた。引用したこれらの文献とは調査対象 物質が必ずしも一致しておらず,ここでは詳細は解らないが,1,4NQ, 9,10 - AQ および 1,2 - BAQ の感度については, GC-MS と各種 HPLC 法との間に顕著な差はないと推察される。

3.3 シリカゲルカラムクロマトグラフィーの分画試験

各 Oxy-PAH 化合物 100 ng をカラムクロマト管(内径 1.5 cm) に充填した 5 g の 5 % 含水シリカゲルの上端に添加し,第一画分と してヘキサンを 25 mL ずつ計 100 mL 滴下し, 続いて第二画分とし て 5 % アセトン/ヘキサンを 20 mL ずつ計 100 mL 滴下した。その 後,2.5 に従い各分取液に内標準物質を添加後,窒素吹き付けによ り 1 mL に定容し,GC-MS にて各分取液中 Oxy-PAHs を定量した。 Fig. 4 のとおり,第一画分には Oxy-PAH 化合物はほとんど溶出せず, 大半が第二画分の 20-80 mL に溶出した。これらの結果から,ヘキ サンを 100 mL 溶出させた後,5% アセトン含有ヘキサンを 80 mL 溶出させることとした。しかし,AceQ と BcP-1,4 Q についてはほ とんど回収されなかった。

3.4 添加回収試験(Oxy-PAHsの捕集効率)

本研究ではサロゲート化合物を使用していないため、2.2.2および2.3の操作で得られた回収率は、サンプリング操作に加えて、抽出・前処理操作を含めた値となる。ここで、Oxy-PAH 化合物の捕 集効率を把握するため、初めに AceQ と BcP-1,4 Q を除いた 10 化



Fig. 3 Calibration curves for the determination of twelve Oxy-PAH compounds

Table 2	Calibration curves for the determination of twelve Oxy-PAH compounds and their instrumental detection limits (ID	Ls)
	\cdot	~ ~ /

Oxy-PAHs	Calibration curves			IDL (pg/µL)	RSD (%)
	Slope	Intersept	R^2	-	
1,4-NQ	0.1309	-0.0005	0.9994	3.7	4.6
9-F-one	0.7036	-0.0214	0.9992	2.5	3.5
AceQ	0.0411	-0.0011	0.9604	6.4	7.9
1,4-PQ	0.0488	0.0007	0.9970	7.4	9.9
9,10-AQ	0.2984	-0.0235	0.9899	3.0	3.7
1,4-AQ	0.0782	-0.0034	0.9937	6.9	9.0
1-OHAQ	0.0808	-0.0059	0.9904	8.9	11.4
1,2-BAQ	0.2455	-0.0094	0.9942	4.2	5.6
BcP-1,4Q	0.3759	-0.0141	0.9979	6.8	8.3
BaA-one	0.239	0.0029	0.9968	3.3	4.1
1,4-CQ	0.1148	-0.0021	0.9997	5.8	7.3
BaP-one	0.1943	-0.0067	0.9973	2.5	3.4

合物の抽出・前処理操作における回収率を確認した(Table 3)。実 験方法は,Oxy-PAH 化合物を添加したQFFと洗浄済みPUFを 2.3に従って抽出・前処理し,GC-MSにて定量した。ここで,回 収率は添加したOxy-PAHsの量に対するGC-MSにより定量された 量の割合と定義する。10化合物のうち1,4-PQと1,4-CQの平均回 収率はそれぞれ12%と29%であり,抽出・前処理過程における損 失が特に顕著であったが,他の8化合物については57%(1,4-AQ) -108%(9-F-one)の範囲内であった。

続いて、1,4-PQ と1,4-CQ を除く8化合物のサンプリング操作 から前処理操作における回収率をTable 3に示す。サンプリング操 作は室温を20℃又は35℃に維持して実施したが、9-F-one およ び9,10-AQの回収率については両温度において顕著な差は認めら れず、回収率は117-127%であった。これらの値は、抽出・前処 理操作における回収率と比較して若干増加しているが、これらの化 合物が強い極性を有するため、サンプリング時に捕集した共存物 質(マトリックス)の影響を受けて定量値が過大となったと思われ る^{36,37)}。1,4-NQおよび1,4-AQについては、20℃での回収率は抽出・ 前処理操作の値とほぼ同程度であったが、35℃における回収率は 20℃の値を下回っていた。これは、分子量の低い1,4-NQ と 1,4-AQ の蒸気圧は比較的高く、そのため、高温時には QFF 表面から揮散 しやすくなること等が原因であると考えられる。中でも 1,4-AQ の 35℃における回収率は 24%であり、捕集時における損失は大き いと思われる。一方、1-OHAQ、1,2-BAQ、BaA-one および BaPone については、20℃における回収率は抽出・前処理操作におけ る値とほぼ同程度であったが、35℃における回収率は 20℃の値を 上回った。これについてもマトリックスの影響^{36,37)}と推察される



Fig. 4 Elution patterns of Oxy-PAH compounds through 5 g of silica (5 % deactivated by distilled water) by gel chromatography Fraction 1 : hexane, Fraction 2 : 5 % acetone/hexane

Table 3	Average recoveries ^a of ten Oxy-PAH compounds during extraction and clean-up procedures and those during sampling, extra	iction
	and clean-up procedures	

Oxy-PAHs	During extraction and clean-up ^b	During sampling, extraction and clean-up		
	-	$20 {}^{\mathrm{o}}\mathrm{C}^{\mathrm{c}}$	35 °C ^d	
1,4-NQ	74 ± 2	79 ± 3	57 ± 2	
9-F-one	108 ± 3	117 ± 4	121 ± 4	
1,4-PQ	12 ± 2	-	-	
9,10-AQ	102 ± 5	127 ± 3	127 ± 5	
1,4 - AQ	57 ± 1	50 ± 2	24 ± 4	
1-OHAQ	101 ± 2	125 ± 5	200 ± 1	
1,2-BAQ	93 ± 3	98 ± 5	122 ± 3	
BaA-one	98 ± 1	84 ± 5	100 ± 7	
1,4-CQ	29 ± 3	-	-	
BaP-one	95 ± 2	82 ± 3	92 ± 4	

^aAverage amount of each Oxy-PAH compound determined by GC-MS relative to the amound added on the QFF.

^bMean±SD (n=3).

^cMean±SD (n=5).

^dMean±SD (n=4).

が、Oxy-PAHs について捕集時の気温とマトリックス効果の関係を 研究した事例はほとんどなく、今後、詳細な検討が必要であろう。 これらの4化合物のうち1-OHAQ については、35℃での回収率は 20℃の場合と比較して75%も上昇しており、マトリックス効果が 他の物質と比較して際立っていた。以上より、1,4-NQ、9-F-one、 9,10-AQ、1-OHAQ、1,2-BAQ、BaA-one および BaP-one の6化合 物については、捕集時の気温に関わらず、検討した分析手法にて十 分に回収できるものと判断した。

3.5 測定方法の検出下限(MDL)及び大気中 Oxy-PAH 化合物の 測定

1,4-NQ, 9-F-one, 9,10-AQ, 1-OHAQ, 1,2-BAQ, BaA-one お よび BaP-one の 6 化合物について, 検討した測定方法(ソックスレー 抽出, シリカゲルによるクリーンアップおよび GC-MS による分析) における検出下限値を算出した(Table 4)。算出方法は IDL と同様, (1)式に従った。検討した 6 化合物の MDL 値は 0.61-1.07 ng/m³(相 対標準偏差: 2.3-8.9%) であった。

検討した分析手法を用いて、大阪市内の都心部における大気中 1,4-NQ, 9-F-one, 9,10-AQ, 1-OHAQ, 1,2-BAQ, BaA-one およ び BaP-one の測定を実施した(Table 4)。検出された Oxy-PAH 化 合物は、1,4-NQ, 9-F-one および 9,10-AQ の 3 化合物であり、他 は検出下限値未満であった。以上の結果から、検討した分析手法に より 1.0 ng/m³ 程度の大気中 Oxy-PAHs を測定することが可能であ ることがわかった。

最後に、大阪市内の測定結果を文献値(Table4)と比較すると、 大阪市内における1,4-NQおよび9-F-oneの濃度はサンティアゴ (チリ)²⁹⁾やミュンヘン(ドイツ)³⁹⁾の値を上回っていたが、9,10-AQ についてはサンティアゴが最も高濃度であり、大阪市内の値はミュ ンヘンと同程度であった。一方、1,2-BAQ については、サンティ アゴとミュンヘンで検出されたが、大阪市内では検出されなかった。 本研究では、アーティファクト低減のため低流速で大気試料を捕集 したことから、本法の MDL 値は HV エアーサンプラー・GC-MS 法²⁹⁾の値を上回っており、このことが1,2-BAQ 等が検出されなかっ たことの一因であると考えられる。大気中 Oxy-PAHs の挙動を詳細 に把握するためには、より高感度な機器を使用する等、さらに感度 を上げる必要があると思われる。

近年, Kishida らは, 主にダイオキシン類分析用^{34,39-41)}として使 用されている高分解能 MS を用いて, ミニポンプで捕集したカトマ ンズ⁴⁾, ハノイ^{6,7)} および大阪府域^{42,43} における大気中 PAHs を定 量し、各地域における汚染状況を調査した。また、Nakao ら⁴¹ は ニトロ化 PAHs を誘導体化後、高分解能 MS で定量する方法を開発 した。このように、高分解能 MS の使用が感度向上の最善の方策と 考えられる。現在、研究所では高分解能 MS を用いた大気中 Oxy-PAHs の詳細調査が実施されているところである⁴⁵。

謝 辞

本研究の一部は,化学物質分析法開発調査として,環境省の委託 を受けて実施したものである。

要 約

本研究では、GC-MSを用いた大気中に存在する粒子状および気 体状 Oxy-PAHs の分析手法の検討を行った。大気中 Oxy-PAHs は、 ミニポンプ又は LV エアーサンプラーを用いて流速 5.0 L/min で 24 時間、大気を QFF と PUF に通気して捕集した。その後、QFF お よび PUF は併せてジクロロメタンでソックスレー抽出を行い、シ リカゲルによるクリーンアップの後、GC-MS にて定量した。

検討したすべての Oxy-PAH 化合物について, 0.02-1.0 μg/mL の間で直線関係が認められた (*r*²:0.960-0.999)。しかし, 12 化合 物のうちサンプリング操作・ソックスレー抽出・前処理の全工程 を通じて十分に回収されたのは6化合物 (1,4-NQ, 9-F-one, 9,10-AQ, 1-OHAQ, 1,2-BAQ, BaA-one 及び BaP-one)であった。この 6 化合物について, MLD 値を算出し, 大阪市内において環境大気 の調査を実施した結果, 本法により ng/m³ 程度の Oxy-PAHs の測 定が可能であることがわかった。

文 献

- 角 大吾,熊谷嘉人:シグナル伝達経路に影響を及ぼす新奇大 気汚染物質1,2-ナフトキノンのケミカルバイオロジー,Yakugaku Zasshi, 127, 1949–1956 (2007)
- 2)環境省:報道発表資料「微小粒子状物質に係る環境基準について(告示)」,2009年9月
- Waller, R.E.: The benzpyrene content of town air. *Br. J. Cancer*, 6, 8–21 (1952)
- Kishida, M., Mio, C., Imamura, K., Kondo, A., Kaga, A., Shrestha, M.L., Takenaka, N., Maeda, Y., Sapkota, B., Fujimori, K., Shibutani, Y. and Bandow, H.: Temporal variation of atmospheric

Oxy-PAHs	$MDL(ng/m^3)$	RSD (%)	Atmospheric concentration $(ng/m^3)^a$		
			This study ^b	Santiago [°]	Munich ^d
1,4-NQ	0.76	5.0	1.6	0.27	N.M.
9-F-one	0.69	2.3	3.2	0.62	0.35
9,10-AQ	0.61	3.2	0.72	1.58	0.96
1,2-BAQ	0.86	6.0	N.D.	1.37	0.41
BaA-one	1.07	8.0	N.D.	N.M.	N.M.
BaP-one	1.05	8.9	N.D.	N.M.	N.M.

Table 4 Method detection limits (MDLs) of Oxy-PAHs and their atmospheric concentrations at an urban location of Osaka, Japan

^aN.D.: Not detected. N.M.: Not measured.

^bSampled on 12–13 February, 2007.

^cSee a reference no.29.

^dSee a reference no.37.

polyaromatic hydrocarbon concentrations in PM10 from Kathmandu Valley and their gas-particle concentrations in winter. *Int. J. Environ. Anal. Chem.*, **89**, 67–82 (2009)

- 5) Kishida, M., Mio, C., Fujimori, K., Imamura, K., Takenaka, N., Maeda, Y., Lan, T.T.N., Shibutani, Y. and Bandow, H.: Seasonal change in the atmospheric concentration of particulate polycyclic aromatic hydrocarbons in Ho Chi Minh City, Vietnam. *Bull. Environ. Contam. Toxicol.*, **83**, 747–751 (2009)
- 6) Kishida, M., Imamura, K., Takenaka, N., Maeda, Y. and Viet, P. H.: Atmospheric polycyclic aromatic hydrocarbons in air samples of Hanoi. In proceeding of environmental science and technology for sustainable development of Asia, the 6th General Seminar of the Core University Program, Oct. 2–3, Kumamoto, Japan, pp30– 35 (2006)
- 7) Kishida, M., Imamura, K., Takenaka, N., Maeda, Y., Viet, P.H. and Bandow, H.: Concentrations of atmospheric polycyclic aromatic hydrocarbons in particulate matter and the gaseous phase at roadside sites in Hanoi, Vietnam. *Bull. Environ. Contam. Toxicol.*, 81, 174–179 (2008)
- Yamasaki, H., Kuwata, K. and Miyamoto, H.: Effects of ambient temperature on aspects of airborne polycyclic aromatic hydrocarbons. *Environ. Sci. Technol.*, 16, 189–194 (1982)
- 9) Kishida, M., Mio, C., Fujimori, K., Imamura, Shibutani, Y. and Bandow, H.: Temporal change in atmospheric polycyclic aromatic hydrocarbons in particulate matter from an urban location of Osaka, Japan: estimation of causes of a significant increase in their concentrations in the winter season. *J. Environ. Chem.*, 19, 543–553 (2009)
- 10) Hien, T. T., Nam, P. P., Sadanaga, Y., Kameda, T., Takenaka, N. part and Bandow, H.: Comparison of particulate-phase polycyclic aronatic hydrocarbons and their variability causes in the Kavouras, I.G., Lawrence, J., air at Ho Chi Minh City, Vietnam and in Osaka, Jap Koutrakis, P., Stephanou, E. 2005–2006. Sci. Total Environ., 382, 70–81 (2007)
 11) W. L. M. W. H. W. H. W. K. T. T. Kawada, T., Takenaka, N. part and Bandow, H.: Comparison of particulate-phase polycyclic aronatic hydrocarbons and their variability causes in the Kavouras, I.G., Lawrence, J., air at Ho Chi Minh City, Vietnam and in Osaka, Jap Koutrakis, P., Stephanou, E. 2005–2006. Sci. Total Environ., 382, 70–81 (2007)
- Wada, M., Kido, H., Kishikawa, N., Tou, T., Tanaka, particulate aliphatic and okura, J., Shironita, M., Matsui, M., Kuroda, N. and Polynuclear
 K.: Assessment of air pollution in Nagasaki City: det aromatic hydrocarbons in Santiago de Chile: Source reconciliation
 and some metals, *Environ. Pollut.*, 115, 139–147 (2001)
- 12)小田淳子,西川雅高,Huang,Y.,Quan,H.:中国3都市における大気中の多環芳香族炭化水素類の汚染特性,環境化学,13,653-671 (2003)
- 13) Kavouras, I.G., Lawrence, J., Koutrakis, P., Stephanou, E.G. and Oyola, P.: Measurement of particulate aliphatic and polynuclear aromatic hydrocarbons in Santiago de Chile: Source reconciliation and evaluation of sampling artifacts. *Atmos. Environ.*, 33, 4977-4986 (1999)
- 14) Yassaa, N., Meklati, B.Y., Cecinato, A. and Marino, F.: Particulate n-alkanes, n-alkanoic acids and polycyclic aromatic hydrocarbons in the atmosphere of Algiers city area. *Atmos. Environ.*, **35**, 1843– 1851 (2001)
- 15) Fang, G.-C., Wu, Y.-S., Chang, C-N. and Ho T.-T.: A study of polycyclic aromatic hydrocarbons concentrations and source identifications by methods of diagnostic ratio and principal component analysis at Taichung chemical Harbor near Taiwan Strait. *Chemosphere*, 64, 1233–1242 (2006)
- 16) Guo, H., Lee, S.C., Ho, K.F., Wang, X.M. and Zou, S.C.: Particle-

associated polycyclic aromatic hydrocarbons in urban air of Hong Kong. *Atmos. Environ.*, **37**, 5307–5317 (2003)

- 17) Tsapakis, M. and Stephanou, E.G.: Occurrence of gaseous and particulate polycyclic aromatic hydrocarbons in un urban atmosphere: study of sources and ambient temperature effect on the gas/particle concentration and distribution. *Environ. Pollut.*, 133, 147–156 (2005)
- 18) Cotham, W.E. and Bidleman, T.F.: Polycyclic aromatic hydrocarbons and polychlorinated biphenyls in air at an urban and a rural site near Lake Michigan. *Environ. Sci. Technol.*, **29**, 2782–2789 (1995)
- 19) Kameda, T., Inazu, K., Bandow, H., Sanukida, S. and Maeda, Y.: Diurnal change of direct-acting mutagenicity of soluble organic fraction of airborne particles collected at Southern Osaka: Correlation between the mutagenicity, particle-associated nitroarenes and gaseous emission. *Atmos. Environ.*, **38**, 1903–1902 (2004)
- 20) Kameda, T., Inazu, K., Hisamatsu, Y., Takenaka, N. and Bandow, H.: Determination of atmospheric nitro-polycyclic aromatic hydrocarbons and their precursors at heavy traffic roadside and at a residential area in Osaka, Japan. *Polycyclic Aromat. Compd.*, 24, 657–666 (2004)
- 21) Kameda, T., Sanukida, S., Inazu, K., Hisamatsu, Y., Maeda, Y., Takenaka, N. and Bandow, H.: Association of the mutagenicity of airborne particles with the direct emission from combustion process investigated in Osaka, Japan. *Atmos. Environ.*, **38**, 6937– 6945 (2004)
- 22) Kameda, T., Inazu, K., Hisamatsu, Y., Takenaka, N. and Bandow, H.: Isomer distribution of nitrotriphenylenes in airborne particles, diesel exhast particles, and the products of gas phase radical-initiated nitration of triphenylene. *Atmos. Environ.*, 40, 1751 (2006)

Ia, T., Goto, T., Toriba, A., Tang, N. and Hayakawa, K.: Deation of airborne particle-associated benz[a]anthraceneuinone using high-performance liquid chromatography i-line reduction and fluorescence detection. *J. Chromatogr.* 6, 6758–6761 (2009)

awa, N. Nakao, M., Ohta, Y., Nakashima, K. and Kuroda, ncentration and trend of 9,10-phenanthrenequinone in airborne particulates collected in Nagasaki city, Japan. *Chemosphere*, **64**, 834–838 (2006)

- (25) Kishikawa, N., Wada, M., Ohta, Y., Nakashima, K. and Kuroda, N.: Highly sensitive and selective determination of 9,10-phenanthrenequinone in airborne particulates using high-performance liquid chromatography with pre-column derivatization and fluorescence detection. *J. Chromatogr. A*, 1057, 83–88 (2004)
- 26) Ahmed, S., Kishikawa, N., Ohyama, K., Maki, T., Kurosaki, H., Nakashima, K. and Kuroda, N.: An ultrasensitive and highly selective determination method for quinones by high-performance liquid chromatography with photochemically initiated luminol chemiluminescence. J. Chromatogr. A, 1133, 76–82 (2006)
- 27) Lintelmann, J., Fischer, K. and Matuschek, G.: Determination of oxygenated polycyclic aromatic hydrocarbons in particulate matter using high-performance liquid chromatography-tandem mass spectrometry. J. Chromatogr. A, 1113, 241–247 (2006)
- 28) Oda, J., Nomura, S., Yasuhara, A. and Shibamoto, T.: Mobile sources of atmospheric polycyclic aromatic hydrocarbons in a

roadway tunnel. Atmos. Environ., 35, 4819-4827 (2001)

- Sienra, M. del R.: Oxygenated polycyclic aromatic hydrocarbons in urban air particulate matter. *Atmos. Environ.*, 40, 2374–2384 (2006)
- 30) 財団法人化学評価研究機構:即存化学物質安全性(ハザード) 評価シート
- 31) Kameda, T., Akiyama, A., Toriba, A., Tang, N. and Hayakawa, K.: Determination of particulate-associated hydroxynitropyrenes with correction for chemical degradation on a quartz fiber filter during high volume air sampler. *Int. J. Environ. Anal. Chem.*, accepted.
- 32)環境庁環境保健部保健調査室:化学物質分析法マニュアル (1987)
- 33) 大阪府環境農林水産部:エコギャラリー < http://www.epcc.pref.osaka.jp/ >
- 34) 西村貴司,多々野秀二,鎌田暁義,服部幸和,牧 定雄:大気 環境中のダイオキシン類の挙動,環境化学,8,759-767 (1998)
- 35) 上堀美知子,今村 清,服部幸和,坂東 博:大阪市内大気 環境におけるアクロレイン等アルデヒド類の挙動,環境化学, 18,197-204 (2008)
- 36) Murayama, H., Takase, Y., Mitobe, H., Mukai, H., Ohzeki, T., Shimizu, K. and Kitayama, Y.: Seasonal change of persistent organic pollutant concentrations in air at Niigata area, Japan. *Chemosphere*, **52**, 683–694 (2003)
- 37)奥村為男:キャピラリー・GC/MSによる水中の農薬及びその 酸化生成物の定量 - 標準液の PEG 共注入法 - ,環境化学,5, 575-583 (1995)
- 38) Schnelle-Kreis, J., Gebefiigi, I., Weizi, G., Jaensch, T. and Kettrup, A.: Occurance of particulate-associated polycyclic aromatic compounds in ambient air of the city of Munich. *Atmos. Environ.*, 35, S71–S81 (2001)
- 39) Kishida, M., Imamura, K., Takenaka, N., Maeda, Y., Viet, P.H.,

Kondo, A. and Bandow, H.: Characteristics of the abundance of polychlorinated dibenzo-*p*-dioxin and dibenzofurans, and dioxinlike polychlorinated biphenyls in sediment samples from selected Asian regions in Can Gio, Southern Vietnam and Osaka, Japan. *Chemosphere*, **78**, 127–133 (2010)

- 40) Kishida, M., Maekawa, T. and Bandow, H.: Effect of extraction temperature on pressurized liquid extraction of polychlorinated dibenzo-*p*-dioxins, polychlorinated dibenzofurans, and dioxin-like polychlorinated biphenyls from a sediment sample using polar and non-polar solvents. *Anal. Chim. Acta*, 659, 186–193 (2010)
- 41) Kakimoto, H., Oka, H., Miyata, Y., Yonezawa, Y., Niikawa, A., Kyudo, H., Tang, N., Toriba, A., Kizu, Y. and Hayakawa, K.: Homologue and isomer distribution of dioxins observed in water samples collected from Kahokugata Lagoon and inflowing rivers, Japan. *Water Res.*, 40, 1929–1940 (2006)
- 42)岸田真男,西川文子,今村 清,服部幸和,藤森啓一:大気中 における粒子状及び気体状多環式芳香族炭化水素類に関する研 究(Part1) -大阪における調査-,第16回環境化学討論会講 演要旨集,544-545 (2006)
- 43) Kishida, M., Okamoto, T., Fujimori, K., Imamura, K., Nishimura, Y., Shibutani, Y. and Bandow, H.: Evaluation of a compact sampler assembled for the simultaneous collection of atmospheric polycyclic aromatic hydrocarbons in size-fractionated particulate matter and the gaseous phase. *J. Health. Sci.*, **56**, 1–10 (2010)
- 44) Nakao, T., Aozasa, O., Ohta, S. and Miyata, H.: Analytical method for determination of dinitropyrenes using gas chromatographyhigh-resolution mass spectrometry. *J. Chromatogr. A*, **1157**, 352– 357 (2007)
- 45) 大阪府環境農林水産総合研究所:平成20年度試験研究課題評価 結果(事前・中間・事後・追跡評価)
 < http://www.epcc.pref.osaka.jp/reaf/hyouka/h20kadaihyouka.pdf >